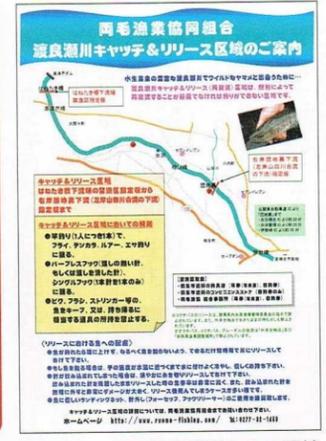


我が漁協

群馬県 両毛漁業協同組合

代表理事組合長 中島 淳志



H24 スタート! 渡良瀬川 C & R 区域



梅田湖特別解禁日 H24 設置



川を見守る案山子



緩傾斜部の魚道点検



高校生による稚ヤマメの標識放流 (脂鱗カット)



魚釣り教室



河川工事の際の魚保護



国土交通省の方と協働で人工産卵床を造成



河川環境と魚の話真剣に聞く子どもたち

はじめに

両毛漁業協同組合は、群馬県桐生市に事務所を構え、利根川支流で最大の流域面積を誇る渡良瀬川とその支流を管轄しております。

渡良瀬川は、最上流域が群馬県と栃木県の境界から有数な山岳渓流に恵まれ、中流から下流域は、河畔林の植生も豊かで水生昆虫が豊富なため、市街地を流れる河川で良型のヤマメが釣れるフィールドとして大変人気を集めております。最下流域で合流する桐生川は、上流域は気軽に楽しめる山岳渓流と、ニジマスとワカサギ釣りで人気の梅田湖があり、下流域はのんびりとした里川として大変親しまれております。

漁場の有効活用

平成二十年より、経営難と資源の逼迫しさから組合管内の釣り場環境においてゾーニング計画を推奨し、そのための魚類調査として、再生産の行われている地点など、漁場の見直しと再確認をしていく調査を続けております。その結果をもとに、渡良瀬川の望ましい区域分けの構想を練り、平成二十四年より

現在の釣りのニーズも考慮して、規則のもと、渡良瀬川に再放流区間を設置し、渡良瀬川におけるゾーニング計画の第一歩を踏み出しました。

この区間は高津戸ダムにより、これより上流への魚の遡上はなく、この地点にて多くの魚種が再生産を行っている地点でもあります。この区間をより有効に活用し、他の区域においても豊富な資源をもたらせられるようつなげていく取り組みを進めてまいります。

梅田湖特別解禁日

桐生川の上流に位置する梅田湖は、常連の遊漁者の方々によって長年支えられてきましたが、年々遊漁者数は減少傾向にあります。魅力のある釣り場として、より多くの方々を知ってもらうため、昨年、規則のもと、禁漁期間中に組合の定める日のみ解禁する特別解禁日を設置いたしました。

自然美溢れる梅田湖で、ただたくさん魚が釣れるのではなく、大きくて綺麗な、コンディションの良い魚のみを厳選して放流し、魚とのやり取りを楽しんでもらうなど、ニーズの多様化に対応する

地域活動

地域の環境活動の一環として、魚の放流、魚釣り、ヤマメ発眼卵の育成などの体験学習を行っており、その際には、両毛漁協の仕事や役割、遊漁におけるルールやマナー、そこに生息する水生生物とそれらを取り巻く河川環境についてのお話をさせていただいております。

平成二十年には高校生の課外活動としてヤマメの放流体験を始め、その後も毎年続けております。生徒の中には、放流場所と同じ河川敷にあるグラウンドで毎日部活をしているが、初めて川岸まで来たという生徒もおり驚いたものです。昨年は生徒数も増え、ヤマメの生態を学び、脂鱗のカットをして標識放流をいたしました。

一昨年からは、桐生川近郊の小学五年生の野外授業として、魚釣りの授業の講師も行ってまいります。子どもたちに釣りを通じて魚と触れ合い、釣りの楽しさや素晴らしさを知ってもらおうと尽力しております。

河川工事に対する管理体制

多自然川づくりを推奨するため、工事内容の確認、現場での説明、計画などを綿密に話し合い、生物多様性の保全と重要性を常に訴えており、土砂の移動や堰き止める際に残り残された水生生物の保護・移動は徹底的に行っております。また、工事によって水生生物の遡上や

一環として実施しましたところ、地元の方々を含め、県内外のこれまで梅田湖に訪れたことのなかった方々にもたくさん参加していただくことができました。今後は、より自然に近い、梅田湖ならではの釣りの醍醐味を味わっていただけるような、質を損なわない漁場を目指しております。

案山子設置の新しい目的

カワウ対策として、長年に渡ってロケット花火やおもちゃのピストルでの追い払いを行ってありますが、平成二十年にはこれに加え、河川管理者である国土交通省の正式な認可のもと、河川敷における案山子の設置にこぎ着けました。同時に日頃の追い払いを強化し、専門家の調査データも取り入れながら対策に取り組みました。平成二十一年からは更なる効果と維持をはかるため、案山子にオレンジ色のベストを着用させ、設置期間の約一ヶ月間、朝晩毎日欠かさず案山子と同じベストを着用して追払い兼飛来調査を行っております。

また、案山子の設置にはカワウ対策以外にも市民の方々の関心を得るといふ降下に悪影響が出ぬよう、カワウからの防衛などを考慮した石の配置及び河床形状の指示など、これらの行為もしくは要望を取り入れていただけるような管理体制を作っております。

今後の展望

当組合は「生命感溢れる資源豊かな河川造り」をモットーに、理事の意識改革向上に努めております。組合内部の結束を固めるため、明確なビジョンを持ち、正しい知識を学び、温故知新で協力し合いながら現状の釣り場環境と向き合っていくことが重要だと思っております。一朝一夕で成し得ることではありませんが、笑顔あふれる現場を築いていきたいと日々努力しております。

平成23年、38歳で代表理事組合長に就任しました! ベテランの方々を併せ、若いパワーで内水面漁業を盛り上げるために日々奮闘しています! HPもぜひごらん下さい。

<http://ryomo-fishing.com/>

両毛漁協 検索

